

XS-1

1970年 / 市販車

1955年の創業以来、2ストロークエンジンのモデルを手がけてきたヤマハ発動機が、初めて発売した4ストロークモデル。日本では高速道路の普及期を迎え、世界的にもモーターサイクルの大型化・高速化へのニーズが高まるなかで、ホンダから4ストローク4気筒のCB750、カワサキとスズキからは2ストローク3気筒のマッハIIIとGT750が相次いで発売されたが、ヤマハは「軽量・スリム・コンパクトな大排気量スポーツモデル」という開発テーマの回答に、細身のダブルクレードルフレームにスリムなOHCツインエンジンを搭載することで解決、その軽快な走りと独特なサウンドは多くのファンを獲得した。機能的で美しいフロントドラムブレーキ、燃料タンク、サイドカバー、単体でも美しいバーチカルツインエンジンなどのエレメントデザインはエレガントなスタイルは現在においても定評がある。また、高度な塗装技術によって表現されたキャンディグリーンの車体色は、YA-1から取り組んできたヤマハ発動機のカラーリングにおける美学が体现されたモデルの代表作のひとつと言える。

